

# 平成29年度益田市社会福祉協議会事業報告

社会福祉法人益田市社会福祉協議会

## 【概要】

- 本年度より本格施行された改正社会福祉法により、社会福祉法人は、経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化等、組織運営に関わるさまざまな変革が求められるようになった。この変革を契機として、更に経営の主体性と自律性を高め、本会の役割や存在意義が広く知られ、多くの方から理解と協力が得られるような取り組みをしていく必要がある。
- こうした状況の中、本会としては、社会福祉法の改正に伴い定款変更を行う中で、理事定数を17名から13名以上15名以内へ、評議員定数を43名から23名以上28名以内へと変更した。4月1日から新評議員28名の任期がスタートし、6月には任期満了により役員改選が行われ、新たに理事15名及び監事3名が選任された。その中で、齋藤 眸前会長、吉川富男前副会長の後を受けて、新たに末成弘明会長、田中 敦副会長が就任した。
- また、新たな社会福祉制度に対応するとともに、社協本来の使命と責任を果たすため、経営組織の更なる機能強化を目的とし、7月1日付けで組織改編を行った。主には、これまで兼務していた常務理事と事務局長を専任化するとともに、これまでの2部制から「総務部」「地域福祉部」「総合企画部」「介護事業部」の4部制へと変更した。
- 近年、前年度繰越金を繰り入れての事業実施が続いていることから、市の担当部局と協議や要望を重ねてきたところだが、市の財政状況も厳しいことから、市補助金や美都・匹見地域高齢者福祉施設指定管理料は、本会の要望額には大きく及ばない結果となり、今後の安定的かつ持続的な経営に非常に大きな不安を抱えることとなった。
- そうした中であって、美都・匹見地域高齢者福祉施設（5ヶ年）、匹見保育所（5ヶ年）、児童館（2ヶ年）は、本年度から新たな指定管理期間がスタートしたわけだが、昨年度実施した美都・匹見地域高齢者福祉施設における給食調理業務の入札において、従来の委託業者が撤退したことなどから業務委託料が大幅な増額となり厳しさを増した。現在の厳しい経営状況からも、引き続き新委託業者と粘り強く減額交渉を重ねていく。
- 本年度の主要事業として、平成30年度からの5年間を計画期間とする「第3期益田市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を益田市と一体となり策定した。本計画の基本理念は、2期計画と同様「みんなで支えあい、助けあふ福祉のまちづくり」とし、その実現に向けて、行政、地域住民、民生児童委員、社会福祉法人・施設、関係機関・団体等と連携・協力して生活・福祉課題の解決を図り、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の更なる発展に努めていくこととした。

## 1. あんしん生活支援センター事業の推進

### (1) あんしん生活支援センターによる包括的支援体制の整備

身近な総合相談窓口として、住民から寄せられるあらゆる生活・福祉課題の課題解決に向けて、行政、民生児童委員、関係機関・団体等との連携・協働を図りながら、生活支援課の各種事業の包括的な事業推進により支援を行った。センター全体での相談件数は253件（月平均21件）だった。

(2) 総合相談事業

①ふれあい福祉相談

毎月第2金曜日、計11回のふれあい福祉相談を行った。開設した相談日の来所相談は1件のみだったが、それ以外に一般相談が83件（月平均6.9件）あった。

②法律相談

毎月第2金曜日、美都支所・匹見支所における各1回の移動相談を含めて、計13回の法律相談を行い、24件の相談があった。

③老人・母子相談

隔月2回（第2・4金曜日）、計23回の老人・母子相談を行った。15件の相談があった。

④電話訪問

民生児童委員女性部の協力をいただき、毎週水曜日、一人暮らしの高齢者等登録者80名に電話をし、安否確認や相談対応を行った。電話内容は「日々の生活」に関するものが約9割を占めた。

(3) 福祉資金貸付事業（民生融金・生活福祉資金）

経済的な支援を必要とする相談が延べ67件あり、34件の福祉資金の貸付を行った。

①民生融金

民生児童委員の協力を得て、低所得者に対し生活に緊急一時的に必要な資金を貸し付けた。貸付者のうち13件のケースを生活困窮者自立支援事業につなぎ、継続的な支援を行った。

資金種別	平成29年度		平成28年度	
緊急生活費	9件	87,000円	34件	333,000円
食生活費	12件	560,000円	6件	270,000円
福祉費	1件	50,000円	0件	0円
住宅費	5件	400,000円	7件	521,000円
介護費	0件	0円	0件	0円
修学費	2件	190,000円	4件	400,000円
療養費	2件	230,000円	4件	430,000円
災害費	0件	0円	0件	0円
計	31件	1,517,000円	55件	1,954,000円

②生活福祉資金

島根県社協の委託を受け、低所得者、障がい者または高齢者に対し必要な資金を貸し付ける生活福祉資金貸付事業を行った。福祉資金として、3件3,008,000円（療養費2件、障がい者自家用車購入1件）の貸付を行った。また、10月27日に生活福祉資金貸付調査委員会を開催した。

(4) 入居債務保証支援事業

島根県社協との連携・支援のもと、賃貸住宅への入居にあたり保証人が確保できない人への支援として、入居債務保証支援事業運営委員会（年4回）を開催し、本事業の利用について審議した。

	平成29年度	平成28年度
相談件数	9件	5件
利用件数	8件	3件

※利用件数8件のうち新規契約が5件、再契約が3件。利用者全員が生活保護世帯

(5) 生活困窮者自立支援事業

生活保護に至る前の生活困窮者に対する第2のセーフティネットとして、益田市から委託を受け、自立相談支援事業、家計相談支援事業を実施し、生活困窮者の自立の促進を図った。

支援調整会議を毎月開催し、支援計画の適切性の協議や終結時の評価等について協議した。また、10月21日、「誰もが住みやすいまちづくりをめざして～制度のはざまを考える～」を演題とする大阪府・豊中市社協 勝部麗子氏による講演会を開催した。（参加者89名）

	平成29年度	平成28年度
相談件数	34件	37件
プラン作成・決定件数	21件	20件

※相談内容の1位は「収入、生活費のこと」、2位は「家賃・ローンの支払いのこと」

(6) フードバンク事業

食べるものがなく困っている人への緊急支援とし、食料品を提供した。協力者100名の方から提供をいただいた1,172品の食料品の中から、29名と3団体に対して、延べ87件の食料支援を行った。うち生活困窮事業支援者12名に対して、延べ25件の食料支援を行った。（生活保護世帯32件、一般世帯15件、障がい者世帯8件、子ども食堂20件）

	平成29年度	平成28年度
相談件数	88件	1件
支援件数	87件	22件
協力者数	100名	67名
品数	1,172件	676件

(7) 日常生活自立支援事業

島根県社協からの受託事業として、判断能力に不安のある高齢者、知的障がい者、精神障がい者など利用契約者76名に対し、専門員2名、生活支援員21名により、福祉サービスの利用援助、日常的金銭の管理、書類等の預かりサービスを提供した。

	平成29年度	平成28年度
生活支援専門員数	2名	2名
生活支援員数	21名	23名
問合せ・相談件数	1,397件	1,413件
実利用者数	76件	72件
新規契約件数	16件	9件
解約件数	14件	10件

(8) 法人後見事業

法人後見受任ケースに対し、適正な財産管理と身上監護に努めた。法人後見受任審査等運営委員会を2回（7月31日、1月29日）開催し、新規の受任について審査を行った。また、受任件数の増加に対応するため、9月から、新たに法人後見支援員（パートタイマー）を1名配置した。

	平成29年度	平成28年度
新規受任件数	4件	1件
継続受任件数	3件	3件
計	7件	4件

(9) 市民後見推進事業

益田市の委託を受けて、市民後見人の養成や事業の周知・啓発に努めた。市民後見推進事業運営委員会を年4回開催し、市民後見人の活動体制について協議をした。また、各地区振興センターや高齢者サロン等へ積極的に出向いての出前講座（延べ16団体、325名受講）を実施した。市民後見人養成講座では、「市民後見人スキルアップ講座」（全4回）を開催し、延べ63名の受講をいただいた。そして、毎月開催の益田・鹿足成年後見センター定例会に出席

し連携を図る中で、8月26日、同センターとの共催で、「市民後見人の必要性について」を演題とする大分大学福祉健康科学部長 衣笠一茂氏による講演会を開催した。（参加者83名）

## 2. 地域福祉事業の推進

### (1) 第3期益田市地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定

益田市の地域福祉計画と益田市社協の地域福祉活動計画を一体的に策定した「第2期益田市地域福祉計画・地域福祉活動計画」（計画期間：平成25～29年度の5年間）が最終年度を迎えたことから、益田市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会を開催し、2期計画の進捗状況を評価するとともに、「第3期益田市地域福祉計画・地域福祉活動計画」（計画期間：平成30～34年度の5年間）を、2期計画と同様、益田市と一体となり策定した。

### (2) ふれあいのまちづくり事業

ご近所福祉活動の推進を図るため、地域の自治会、地区社協、地域自治組織等へ働きかけ、計7ヶ所に向いて支え合いマップづくりの普及・促進に努め、小地域福祉ネットワーク活動の更なる充実に取り組んだ。

また、津和野町社協・吉賀町社協と共催し、9月27日に「ふれあいネットワークまちづくり研修会」を開催し、136名の参加者があった。研修会では、横浜市旭区社協 梅木博志氏による、災害時に備えた支え合いマップづくりについての講演と事例説明を行った。本研修会の開催を通じて、3社協職員による定期的な連携会議及び研修会を行い、益田圏域における支え合いマップづくりの推進に努めた。

### (3) 地区社協及び各種福祉団体の活動支援

地区社協の活動支援と事務局強化のため、財政支援を行った。6月7日に地区社協会長事務局長会議を開催し、本会の事業説明と事業協力をお願いをした。地区社協のない美都・匹見地域においては、当該地区振興センター長等に事業説明を行った。

また、市内の各種福祉団体が実施する福祉活動に対して助成するなどの支援をした。美都・匹見支所では、介護者の会、老人クラブ、障がい者団体、匹見地域福祉委員会等の事務局として、組織の活性化と福祉活動の充実に努めた。

### (4) 地域福祉活動助成事業

地域福祉活動助成金交付要綱に基づき開催した審査会（年3回）での審査結果に従い、助成決定した先駆的・モデル的な地域福祉活動に対し、助成金を交付した。

	平成29年度	平成28年度
助成団体数	10団体	9団体
助成総額	1,127,900円	1,412,666円

### (5) ふれあい・いきいきサロン事業

高齢者等が身近な場所で気軽に集うことで、閉じこもり防止や健康増進、介護予防等を促進することを目的とし、高齢者サロンの設置促進に努めた。市との共催で「介護予防研修会・ふれあい・いきいきサロン交流会」を開催し、世話人や会員の研修や交流の場を提供した。また、安定的なサロン活動ができるように、申請のあった67サロンに対し助成金を交付するなど、活動を支援した。

	平成29年度	平成28年度
新規サロン件数	5件	2件
継続サロン件数	76件	76件
計	81件	78件

### (6) 高齢者サロン等交流会助成事業

高齢者サロンが行う他のサロンや団体等との交流事業に対し、申請のあった9サロンに対

し助成金を交付した。

	平成29年度	平成28年度
助成件数	9件	9件
助成総額	347,000円	287,000円

(7) ふれあい子育てサロン事業

新規サロンの設置はできなかったが、申請のあった継続活動中の6サロンに対し、助成金の交付により活動を支援した。

	平成29年度	平成28年度
新規サロン件数	0件	1件
継続サロン件数	11件	10件
計	11件	11件

(8) 多目的福祉バス運行事業

市内の各種福祉団体が行う福祉活動や研修などの支援のため、市内を範囲として福祉マイクロボスを運行した。

	平成29年度	平成28年度
延べ利用団体数	142団体	115団体
延べ利用者数	3,093名	3,300名

(9) 広報・啓発機能の充実強化

①機関誌発行事業

社協事業のPRや福祉団体等の活動状況などを紹介することにより、福祉意識の啓発を図るため、社協だより「はあーてい」を6回発行し、全世帯に配布した。また、親しみやすくわかりやすい紙面づくりをめざして、発行にあたり「社協だより編集会議」や「広報運営委員会」を開催し、掲載記事の内容について検討した。

②社協ホームページ事業

社協ホームページ内で掲載している「新着情報」「ふれあい通信」などを適宜更新し、リアルタイムの情報提供に努めた。

(10) 友愛メール発送事業 [美都支所]

美都郵便局との協力事業として、希望する一人暮らし高齢者に対し、季節のお知らせ等を掲載した友愛メール「お元気ですか」を毎月1回郵送し、配達する郵便局員による一声運動により安否確認に努めた。

(11) 安心お買い物宅配サービス事業 [匹見支所]

事前登録の16世帯のうち、利用希望のあった4世帯に対し、安心お買い物宅配サービス「匹見らくらく便」を実施した。注文のあった品を利用者宅へ延べ78回届けた。

また、利用者同士の交流を図るとともに、自ら目で直接見て買い物ができるように、「らくらくサロン」を4回開催した。

(12) 小型除雪機・祭壇・車いす貸出事業 [匹見支所]

申請のあった希望者の対し、常備している小型除雪機、祭壇、車いすを貸し出した。

(貸出件数 除雪機18件、祭壇2件、車いす11件)

(13) 益田市総合福祉センター事業

益田市の指定管理を受け、老人福祉センター及び母子福祉センターとして、また地域福祉の活動拠点として、その機能が発揮できるように、「益田市総合福祉センター」の適正な運営管理に努めた。福祉団体などが行う会議や研修等の貸館事業のほか、老人・母子講座の開催や老人・母子相談等を行った。

(14) 社会福祉法人・福祉施設との連携・協働による地域公益活動の推進

市内の主だった3つの社会福祉法人、保育研究会とともに、「益田市社会福祉法人連絡会（仮称）準備会」を開催し、「益田市社会福祉法人連絡会（仮称）」の設立に向けて、方向性を協議・確認した。

(15) 益田市社会福祉大会の開催

11月30日、グラントワにおいて「第35回益田市社会福祉大会」を開催した。式典において益田市社協会長表彰及び感謝状を贈呈した後、少年の主張益田市大会で優秀な成績を収めた中学生3名の発表や、金子みすゞ記念館館長 矢崎節夫氏による「みすゞさんのやさしいまなざし～みんなちがって、みんないい～」と題しての講演を行った。約250人の参加があった。

(16) 各種表彰候補者の推薦

島根県社会福祉協議会会長表彰・感謝、島根県知事感謝など、社会福祉法人・福祉施設、関係機関・団体等に各種表彰候補者の推薦を依頼するとともに、申請があり表彰対象となる候補者の推薦書を依頼団体に提出した。

(17) 益田市民余芸大会の開催

山陰中央新報社、益田市、益田市社協の共催により、12月17日、「第39回年忘れ益田市民余芸大会」をグラントワにおいて開催した。17団体の出演と、約1,000人の来場者があった。収益金55万円のうち33万円を歳末たすけあい募金へいただいた。

(18) 児童福祉対策事業の推進

①益田市立児童館〔本所〕

益田市の指定管理を受け、「益田児童館」「吉田児童館」「高津児童館」「飯田児童館」の4児童館の管理運営を行った。市の児童館のあり方検討会の提言を受け、本年度から、開館時間の1時間短縮、木曜日の休館日が追加され、指定管理期間も平成30年度までの2年間に短縮されるとともに、指定期間終了後は児童館を廃止し、新たな「子育て支援施設（仮称）」への転換をめざすという方向性が示された。そうした中で、これまでの4館合同による「児童館長会」のほか、個別ごとの館長会議を開催し、今後の施設のあり方等について協議検討を重ねたが、市から具体的な提示がなく混沌とした。

また、各児童館において運営委員会を開催し、児童館行事や今後の児童館のあり方等について協議をした。

〔児童館利用者数〕

	平成29年度					平成28年度
	幼児	児童	生徒	大人	計(人)	計(人)
益田児童館	802	3767	207	2927	7,703	7,476
吉田児童館	242	1898	137	1934	4,211	4,980
高津児童館	306	601	120	716	1,743	2,033
飯田児童館	210	887	295	2867	4,259	5,059
計(人)	1560	7153	759	8444	17,916	19,548
平成28年度	1398	7884	976	9290	19,548	

②美都地域子育てサロンの設置・運営〔美都支所〕

子育てをする親の不安や負担軽減を図るとともに、子育ての喜びや夢を持ち続けられるように、子育てサポーター等の協力のもと、「美都地域子育てサロン」を14回開催し、延べ169名の参加があった。（都茂会場、東仙道会場ともに各7回開催）

③益田市立匹見保育所〔匹見支所〕 … 職員11名（正規4、嘱託5、パート2）

益田市より本年度から5ヶ年の指定管理を受け、匹見地域における唯一の保育所として適正な管理運営に努めるとともに、「自然を通して生きる力を育てる」の保育指針に基づいて児童

の健全育成に努めた。

	平成29年度	平成28年度
3歳未満		
月平均利用者数	7名	4名
年延べ利用者数	1,557名	1,017名
3歳以上		
月平均利用者数	8名	11名
年延べ利用者数	1,832名	2,355名
一時保育延べ利用者数	11名	6名
休日保育延べ利用者数	28名	16名
延長保育延べ利用者数	76名	70名
低学年受入延べ利用者数	849名	770名
年間延べ利用者数合計	4,249名	4,148名

### 3. ボランティア・福祉教育の推進

#### (1) ボランティアセンター事業

ボランティア活動への関心を高め、活動への参加促進を図るため、益田市ボランティアセンターの運営を行った。ボランティア活動に関する相談・コーディネートや情報提供を行うとともに、ボランティア活動の担い手となる人材の育成に努めた。

##### ① ボランティア活動の促進・サポート

ボランティア活動に関する相談受付窓口となり、ボランティア活動希望者と活動を必要とする募集者のコーディネート役として情報提供や調整等を行った。また、ボランティアセンターが常備している高齢者疑似体験グッズやユニバーサルスポーツ用品等の貸し出しを行った。そして、ボランティア表彰に関する情報提供や候補者・団体の推薦等を行った。

##### ② ボランティア保険への加入促進

安心してボランティア活動が行えるように、ボランティア保険の受付窓口として加入手続きを行うとともに、加入助成を行った。

	平成29年度	平成28年度
活動保険		
個人	245名	233名
団体 (延べ人数)	65団体 (1,391名)	58団体 (1,460名)
行事用保険		
加入件数 (延べ人数)	100件 (3,143名)	109件 (3,143名)

##### ③ ボランティアに関する広報・啓発

「ますだボランティア情報」を2回発行し全戸配布するとともに、市内福祉施設のボランティア情報を掲載した「ボランティア情報誌」を発行し関係機関に配布するなど、ボランティアに関する広報・啓発に努めた。また、「民間助成ニュース」の発送など、各種民間助成金情報を適宜関係機関・団体に情報提供するとともに、相談対応を行った。

##### ④ 益田市ボランティア連絡会の活動支援

益田市ボランティア連絡会の事務局として、総会、役員会、研修会、交流会等の開催などの団体事務・運営を行った。

⑤ボランティア研修会の開催

3月23日、益田市ボランティアセンター研修会を開催した。「ボランティア・日常に役立つ傾聴入門講座～温かな聴き手を目指して～」と題して、日本傾聴ボランティア研究センター理事長 澤村直樹氏の講演を行った。

⑥災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施

平成28年度に改訂した「益田市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」に基づいて、災害発生時において迅速かつ的確に被災者支援活動が行えるように、8月29日～30日、島根県社協とともに「災害ボランティアセンター運営者・運営支援者養成講座」を開催し、運営者側の研修と地域住民参加による災害ボランティアセンター設置・運営訓練を行う中で、実践確認をした。また、10月28日の益田市防災訓練に参加し、災害ボランティアセンター運営訓練を実施する中でその実効性をさらに高めた。

(2) サマーボランティアスクールの開催

学校・施設等の協力のもと、夏休み期間を利用して、中学生及び高校生を対象としたサマーボランティアスクールを開催した。本年度より、新たに益田・吉田地区の保育施設（10ヶ所）の協力をいただき、全42施設（うち33施設で実施）での体験活動を可能にしたこと、さらには活動期間を3週間に拡大し、希望者には複数施設での体験活動を可能とした。そうした保育施設の増加と活動期間の拡大等により、保育施設への活動希望が集中したものの昨年度の2倍以上となる、147名の参加があった。本事業の実施にあたり、5月26日に合同説明会、7月17日に開講式、7月24日～8月10日に体験活動の実施、1月30日に意見交換会を開催した。

	平成29年度		平成28年度	
中学生	9校	91名	8校	52名
高校生	4校	56名	3校	16名
計	13校	147名	11校	68名

(3) 福祉教育指定校の支援

市内の小・中・高等学校の児童・生徒を対象に、福祉への理解と関心を高め、思いやりの心を育てることを目的とし活動する学校支援として、申請のあった30校（小学校15校、中学校12校、高等学校2校、養護学校1校）に対し、総額1,589,200円の福祉教育助成金を交付した。

(4) 出前手話講座の開催

益田市聴覚障害者協会（講師）とあゆみの里（手話通訳）の協力を得て、申請のあった市内の小・中・高等学校（8校、356名）に出かけ、手話講座を開催した。

	平成29年度		平成28年度	
小学校	4校	153名	4校	139名
中学校	3校	184名	3校	165名
高等学校	1校	19名	2校	108名
計	8校	356名	9校	412名

(5) 福祉出前講座の実施

地域の福祉力を高めることを目的とし、職員が講師役となり、地域に出かけるなどし「福祉出前講座」を32回実施した。

	平成29年度	平成28年度
実施件数	32件	34件
延べ受講者数	699名	681名

(6) あいサポート運動の推進



多様な障がいの特性や配慮などを理解し、日常生活の中で障がい者が困っている場面を見かけたときに声かけやちょっとした手助けを行う「あいサポーター」を普及させるため、「あいサポーター研修」を11回実施した。（受講者490名）

#### 4. 在宅・施設サービスの推進

高齢者や障がい者が可能な限り住み慣れた地域で自立した生活が送られることができるよう、介護サービス事業や障害福祉サービス事業を実施した。本所介護事業部による各施設・事業所を定期的に巡回しての点検・指導により、適正な管理運営と質の高いサービス提供に努めた。

##### <本所>

本所における全介護事業所の介護保険事業収入額は、前年度比96.3%、▲2,261千円の減収となった。近年、全体的に在宅の利用者が施設入所を選ぶ傾向にある中、介護度の高い利用者が入所・死亡されたことに伴い、居宅介護（▲88.7%、▲1,789千円）、訪問介護（▲95.1%、▲1,386千円）が大幅に減少した。

##### (1) 指定居宅介護支援事業所 … 職員5名（正規4、パート1）

要介護者等からの相談・依頼を受けて、適切な介護サービス等が利用できるように、サービス事業所や関係機関と連携・調整し、居宅サービス計画（ケアプラン）の作成等を行った。7月より特定事業所加算（加算Ⅱ）を取得した。

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	90.6名	101.2名
延べ利用者数	1,087名	1,214名

##### (2) 指定訪問介護事業所 … 職員13名（正規3、嘱託1、パート9）

身体介護や生活援助が必要な家庭にホームヘルパーを派遣し、食事・排泄介助、調理、洗濯等のサービスを提供した。今年度から介護予防・日常生活支援総合事業が始まり、要介護認定の更新により順次移行した。

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	61.6名	65.6名
月平均訪問回数	499.3回	650.9回
月平均訪問時間数	438.4時間	615.0時間
延べ訪問回数	5,992回	7,811回
延べ訪問時間数	5261.3時間	7380.3時間

##### (3) 指定訪問入浴介護事業所 … 職員7名（正規2、パート5）

看護職員1名と介護職員2名が訪問入浴専用車両で利用者宅を訪問し、専用の浴槽で入浴、洗髪、健康チェックなどのサービスを提供した。事業廃止に伴い、5月より共楽苑の4件の利用者を引き継ぐとともに、2月には、ひまわり福祉会（出雲市）より訪問入浴専用車両の無償譲渡を受けた。

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	28.3名	25.7名
月平均利用回数	116.7回	111.2回
延べ訪問利用者数	1,400名	1,334名

##### (4) 高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）生活援助員派遣事業

益田市の委託を受けて、明見団地・市営須子住宅のシルバーハウジング入居者（36世帯）と県営久城団地のシルバーハウジング入居者（8世帯）に対し、生活援助員が毎週2回自宅

を訪問し、安否確認や一時的な家事援助、生活指導・相談等を行った。また、毎週月・水・木曜日、明見団地内の市営須子住宅集会所において、生活援助員協力員による高齢者の集いを実施し、レクリエーションや生きがい活動を行った。

(5) はつらつ介護者ふれあい支援サービス事業

9月22日、益田市からの受託により「はつらつ介護者ふれあい支援サービス事業」を実施した。施設見学、健康体操、介護相談を行うなど介護者のリフレッシュを図った。

(6) 介護機器貸出事業

介護用ベッドや車いすなど、必要な世帯に貸し出し、介護者の負担軽減と利用者の福祉増進を図った。

<美都支所>

美都支所における全介護事業所の介護保険事業収入額は、前年度比99.7%、▲850千円の減収となった。デイサービスの延べ利用者数の増加により増収(109.5%、4,311千円増)となった一方で、春日荘における外部サービス利用型特定施設利用者の入院・退所等による訪問介護事業の大幅な利用減が大きく影響した。(▲87.4%、▲4,041千円)

本年度から、春日荘・美寿苑・美都デイサービスセンターの3施設において、「施設ボランティアポイント制度」を開始した。

(1) 美都地域包括支援センター … 職員2名(正規2)

益田市からの委託を受け、介護予防ケアマネジメントや包括的支援事業等の実施を通じて、地域住民の心身の健康の保持や生活の安定のために必要な援助を行うとともに、保健医療の向上と福祉の増進を包括的に支援した。また、毎月「美都地域ケア会議」を開催し、個別事例の検討を通じて、美都地域における地域包括ケアシステムの構築に向けて協議を重ねた。

	平成29年度	平成28年度
実相談者数	108名	126名
延べ相談件数	139件	171件
介護予防ケアプラン作成		
月平均利用者数	33.6件	44.3件
延べ利用者数	403件	531件
虐待通報件数	1件	2件
虐待認定件数	0件	0件

(2) 美都町居宅介護支援事業所 … 職員2名(正規1、嘱託1)

要介護者等からの相談・依頼を受けて、適切な介護サービス等が利用できるように、サービス事業所や関係機関と連携・調整し、居宅サービス計画(ケアプラン)の作成等を行った。また、益田市の委託を受け、要介護認定調査事業に取り組んだ。

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	42.0名	32.4名
延べ利用者数	540名	389名

(3) 美都町ホームヘルパーステーション … 職員9名(正規1、嘱託1、パート7)

身体介護や生活援助が必要な家庭にホームヘルパーを派遣し、食事・排泄介助、調理、洗濯等のサービスを提供した。

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	26.5名	27.7名
月平均訪問回数	215.1回	227.1回
月平均訪問時間数	188.2時間	191.6時間

延べ訪問回数	2,581回	2,725回
延べ訪問時間数	2258.3時間	2299.3時間

(4) 益田市立美都デイサービスセンター … 職員12名(正規2、嘱託5、パート5)

在宅での生活に支障のある要支援・要介護高齢者に対し、デイサービスセンターにおいて、介護、入浴、食事等のサービスや介護予防に効果のあるサービスなどを提供した。

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	19.6名	18.8名
月平均利用回数	505.8回	485.1回
延べ利用者数	6,070名	5,821名

(5) 益田市立特別養護老人ホーム美寿苑 … 職員30名(正規10、嘱託5、パート15)

特別養護老人ホームの特性や機能を活かし、入居者・利用者の立場に立った質の高いサービス提供に努めるとともに、地域の協力を得ながら、適正かつ効率的な施設経営に努めた。

その中で、昨年度の給食調理業務入札手続きの遅れにより、4月1日から25日までの間、直営で給食調理業務を実施することとなったが、職員の協力により無事おいしい食事を提供することができた。

また、毎週火曜日、益田市が推進する「いきいき百歳体操」を取り入れ、美都地域の高齢者の健康づくり、生活支援、社会参加を目的としたサロン「暖暖茶の間」を開催した。

①介護老人福祉施設〔入所定員30名〕

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	30.4名	30.7名
定床利用率	98.9%	98.5%
平均介護度	4.39	4.15

②短期入所生活介護事業(ショートステイ)〔利用定員6名〕

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	20.5名	20.8名
延べ利用日数	1,968日	1,994日
定床利用率	89.7%	91.1%
平均介護度	2.25	2.06

(6) 益田市立老人ホーム春日荘 … 職員28名(正規8、嘱託14、パート6)

養護老人ホームの特性や機能を活かし、入居者一人ひとりが安全で安心した生活が送られるように、地域住民の協力のもと、施設の適正な管理経営に努めた。また、外部サービス利用型特定施設として、入居者のニーズや心身の状態に応じて、訪問介護や通所介護等の介護保険サービスの利用を促進した。

①養護老人ホーム〔入所定員50名〕

②外部サービス利用型特定施設

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数		
特定施設	28.0名	29.9名
訪問介護	28.0名	29.9名
通所介護	5.9名	4.8名
福祉用具貸与	16.4名	17.8名

(7) 配食サービス事業

益田市の受託事業として、毎週火・金曜日(週2回)、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯で、自分で調理することが困難な利用者に、配食ボランティアの協力を得て弁当を配り、安否

確認を行った。

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	14.4名	15.9名
月平均利用回数	77.9回	97.8回
延べ利用者数	935名	1,174名

(8) 外出支援サービス事業（移送サービス）

益田市からの委託を受け、寝たきりや重度障害のため、自力での移動が困難な方を病院等へ移送した。

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	0.3名	0.4名
月平均利用回数	0.3回	0.4回
延べ利用者数	4名	5名

(9) 福祉用具貸与事業

必要な世帯に、常備している介護用ベッド、エアーマット、車いす、杖等の介護機器や、チャイルドシート、ジュニアシート等の子育て用品の貸し出しを行った。また、共同募金助成金を活用し、福祉用具の消毒・修繕を行った。

<匹見支所>

匹見支所における全介護事業所の介護保険事業収入額は、前年度比96.8%、▲6,032千円の減収となった。特別養護老人ホームもみじの里における短期入所の減収（▲81.2%、▲4,544千円）が主な要因だが、1月にインフルエンザB型の感染が拡大したことから、短期入所の受入中止（7名、延べ29日）による影響が大きかった。

(1) 匹見地域包括支援センター … 職員2名（正規2）

益田市からの委託を受け、介護予防ケアマネジメントや包括的支援事業等の実施を通じて、地域住民の心身の健康の保持や生活の安定のために必要な援助を行うとともに、保健医療の向上と福祉の増進を包括的に支援した。また、毎月「匹見地域ケア会議」を開催し、個別事例の検討を通じて、匹見地域における地域包括ケアシステムの構築に向けて協議を重ねた。「匹見でつろうて暮らす7か条」を作成し、全戸配布やポスター掲示等により周知に努めた。

	平成29年度	平成28年度
実相談者数	44名	77名
延べ相談件数	120件	196件
介護予防ケアプラン作成		
月平均利用者数	37.8件	46.7件
延べ利用者数	454件	560件
虐待通報件数	1件	0件
虐待認定件数	0件	0件

(2) 匹見居宅介護支援事業所 … 職員2名（正規2）

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	37.8名	34.8名
延べ利用者数	453名	418名

(3) 匹見指定訪問介護事業所 … 職員7名（正規1、嘱託1、パート5）

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	17.9名	20.8名

月平均訪問回数	109.0回	131.4回
月平均訪問時間数	96.1時間	139.2時間
延べ訪問回数	1,308回	1,577回
延べ訪問時間数	1141.3時間	1670.3時間

(4) 通所介護事業（デイサービスセンター） … 職員6名（正規3、嘱託1、パート2）

① 匹見指定もみじ通所介護事業所〔月・火・水・金曜日〕

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	10.6名	10.7名
月平均利用回数	34.2回	35.1回
延べ利用者数	2,165名	2,180名

② 匹見指定通所介護事業所〔木曜日〕

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	8.9名	8.2名
月平均利用回数	10.7回	10.1回
延べ利用者数	463名	417名

(5) 益田市立特別養護老人ホームもみじの里 … 職員29名（正規16、嘱託11、パート2）

① 介護老人福祉施設〔入所定員30名〕

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	30.8名	30.5名
定床利用率	97.4%	96.8%
平均介護度	3.89	3.92

② 短期入所生活介護事業（ショートステイ）〔利用定員8名〕

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	18.7名	21.8名
延べ利用日数	2,046日	2,550日
定床利用率	70.1%	87.3%
平均介護度	2.06	1.89

(6) 益田市立匹見高齢者生活福祉センターふれあいの園 … 職員7名（正規1、嘱託2、パート4）

高齢により独立した生活に不安のある方の生活の場として、地域住民やボランティア団体等の協力のもと、匹見高齢者生活福祉センターの適正な管理運営に努めた。（入所定員12名）

また、毎週木曜日、デイサービス事業を実施した。

(7) 配食サービス事業

益田市の受託事業として、毎週水曜日（月4回）、民生児童委員・配食ボランティアの協力を得て、一人暮らし高齢者または高齢者のみ世帯で、自分で調理することが困難な利用者宅を訪問し、調理ボランティアが作った弁当を届け、安否確認を行った。

	平成29年度	平成28年度
月平均利用者数	19.0名	20.7名
月平均利用回数	62.9回	67.9回
延べ利用者数	755名	815名

## 5. 社協基盤の強化

(1) 組織運営

社協事業の効率的・効果的な推進のため、毎月1回、運営会議、支所連絡会議を開催すると

ともに、理事会（5回）、評議員会（3回）を開催した。

社会福祉法の改正に伴い、4月1日の新定款施行により、同日から新評議員28名の任期がスタートした。6月には任期満了に伴う役員改選により、理事15名、監事3名及び顧問1名が選任されるなど、新たな役員体制がスタートした。また、7月1日付で組織改編を行うとともに、それに伴う人事異動を行った。3月には、平成18年から常務理事であった福原正巳理事の辞任による退任に伴い、新たに寺戸紳児理事が選任された。

苦情処理実施要領に基づき委嘱している第三者委員（本所・美都・匹見担当各2名）の任期満了に伴う改選に合わせて、第三者委員との意見交換会を開催した。委員全員を一堂に会しての全体開催と担当地区別開催をそれぞれ実施し、苦情解決に係る制度確認や状況報告と意見交換を行った。（苦情受付・解決件数5件）

新たに春日荘の一部の職員が、公共関連職場で働く労働者が一人でも加入できる労働組合、日本自治体労働組合総連合（自治労連）・しまね公共サービス関連労働組合に加入したことに伴い、申し入れのあった要求書に基づき、団体交渉を10月30日と12月22日に行った。

#### ○理事会

	会議名・開催日	主 要 議 題
1	第199回理事会 5月30日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度益田市社会福祉協議会事業報告及び一般会計資金収支決算の承認について（監査報告）</li> <li>・平成29年度一般会計資金収支補正予算第1号の承認について</li> <li>・益田市社会福祉協議会役員及び評議員の報酬等に関する規程の制定について</li> <li>・益田市社会福祉協議会会員規程の改廃について</li> <li>・益田市社会福祉協議会評議員候補者の推薦について</li> <li>・定時評議員会の開催について</li> </ul>
2	第200回理事会 6月26日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長、副会長、常務理事の選定について</li> <li>・顧問の選任について</li> <li>・益田市社会福祉協議会における組織改編について</li> <li>・益田市社会福祉協議会職員の人事異動について</li> <li>・益田市社会福祉協議会事務局規程の一部改正について</li> <li>・益田市社会福祉協議会部会設置規程の一部改正について</li> <li>・益田市社会福祉協議会部会及び委員会委員等の費用弁償に関する規程の制定について</li> </ul>
3	第201回理事会 2月8日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度一般会計資金収支補正予算第2号の承認について</li> <li>・益田市社会福祉協議会経理規程の一部改正について</li> <li>・益田市立匹見保育所運営規程の制定について</li> <li>・第118回評議員会の開催について</li> </ul>
4	第202回理事会 3月20日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度一般会計資金収支補正予算第3号の承認について</li> <li>・第3期益田市地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定について</li> <li>・就業規則の一部改正について</li> <li>・職員の給与及び退職手当規程の一部改正について</li> <li>・役員及び評議員の報酬等に関する規程の一部改正について</li> <li>・益田市立匹見保育所運営規程の一部改正について</li> <li>・平成30年度益田市社会福祉協議会事業計画(案)の承認について</li> <li>・平成30年度一般会計資金収支予算(案)の承認について</li> <li>・職員の人事異動について</li> </ul>

		・第119回評議員会の開催について
5	第203回理事会 3月30日(金)	・常務理事の選定について ・監事監査規程の制定について ・職員の給与及び退職手当規程の一部改正について

○評議員会

	会議名・開催日	主要議題
1	第117回評議員会 (定時評議員会) 6月20日(火)	・平成28年度益田市社会福祉協議会事業報告及び一般会計資金収支決算の承認について(監査報告) ・平成29年度一般会計資金収支補正予算第1号の承認について ・益田市社会福祉協議会役員及び評議員の報酬等に関する規程の制定について ・益田市社会福祉協議会会員規程の改廃について ・新理事、監事の選任について
2	第118回評議員会 2月23日(金)	・平成29年度一般会計資金収支補正予算第2号の承認について
3	第119回評議員会 3月29日(木)	・平成29年度一般会計資金収支補正予算第3号の承認について ・第3期益田市地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定について ・役員及び評議員の報酬等に関する規程の一部改正について ・平成30年度益田市社会福祉協議会事業計画(案)の承認について ・平成30年度一般会計資金収支予算(案)の承認について ・理事の退任及び選任について

○監査会

	会議名・開催日	主要議題
1	決算監査 5月19日(金)	・平成28年度事業報告及び決算について
2	上期監査会 11月22日(水)	・平成29年度上期事業報告及び上期決算について

○評議員選任・解任委員会

	開催日	主要議題
1	6月5日(月)	・評議員の選任について

○苦情解決の結果

	受付日	対象事業所	申出者	受付方法	苦情内容
1	4月6日(木)	本所・居宅介護	利用者の家族	電話	ケアの内容に関すること
2	4月22日(土)	本所・訪問介護	担当ケアマネ	電話	ケアの内容に関すること
3	6月20日(火)	本所・訪問介護	担当ケアマネ	電話	ケアの内容に関すること
4	7月28日(金)	本所・訪問介護	利用者の家族	電話	ケアの内容に関すること
5	9月6日(水)	美都デイサービス	利用者の家族	訪問時	ケアの内容に関すること

(2) 財務運営

市の厳しい財政状況の影響を受け、年々、市補助金や美都・匹見高齢者福祉施設指定管理料の財源確保が厳しくなり、徐々に繰越金が少なくなっていく中、市に対して、市補助金や指定管理料についての要望や照会を行った。また、利用者の確保や加算取得等介護報酬の収入増に努めるとともに、限られた財源で効果的に事業運営を進めた。

自主財源の確保のため、自治会、地区社協、福祉委員等の理解と協力を得て、社協会費の増

強に努め現状維持を保持する一方、香典返し等の善意寄附金は年々大きく減少してきている。

○社協会費

	平成29年度		平成28年度	
一般会費	17,010口	13,608,000円	17,002口	13,602,000円
賛助会費	311口	597,000円	332口	644,000円
特別会費	93口	520,000円	99口	545,000円
計	17,414口	14,725,000円	17,433口	14,791,000円

○善意寄附金

	平成29年度		平成28年度	
香典返し	140件	4,998,000円	166件	6,784,000円
見舞い返し	8件	145,000円	3件	50,000円
一般寄附	23件	611,931円	42件	958,380円
計	171件	5,754,931円	211件	7,792,380円

(3) 人材確保・育成

美都・匹見地域高齢者福祉施設における介護職員・看護職員等の募集など、ハローワークや県福祉人材センターへの求人登録や社協ホームページへの掲載等も行っているが、それが正規職員の募集であってもなかなか応募がない状況が続き、人員確保に大変苦慮した。

また、人権研修への参加義務付けと、法人内の一体感の醸成を図るために、全職員を対象とした職員全員研修会を年2回開催した。職場内研修の実施と外部研修への積極的な参加により、役職員の資質向上に努めた。そして、職員の資格取得に対し、職員資格取得祝金交付要綱に規定する制度の活用推進により、職員のスキルアップと人材の育成・定着化に努めた。

○職員全員研修会

	研修名・開催日	研修内容
1	第1回職員全員研修会 9月2日(土)	テーマ「働きやすい職場環境づくりのためにコミュニケーション能力をさらに高めよう！」 末成会長講話、接遇研修
2	第2回職員全員研修会 3月21日(水・祝日)	テーマ「生活に不自由を感じる人への支援のあり方について学び考えよう！」 視覚障がい者への支援のあり方についての講演・実習

(※上記施設・事業所に記載する職員数は、平成30年3月31日現在の人数)